

## 第606回建設技術講習会 現場研修事業の概要

### 1 中部縦貫自動車道建設事業

..... 大野市中津川～福井市玄正島町

国道158号中部縦貫自動車道は、長野県松本市を起点に福井県福井市に至る延長約160kmの高規格幹線道路であり、中央自動車道長野線、東海北陸自動車道、北陸自動車道を相互に連絡して広域交通の円滑化を図り、文化・観光資源を活かした地域振興や産業経済の発展を支援する高規格幹線道路(自動車専用道路)です。



このうち福井県内を横断

する永平寺大野道路は、大野市中津川～福井市玄正島町に至る約26.4kmの道路で、平成26年4月現在、松岡IC～永平寺東IC間(約3.2km)、及び上志比IC～勝山IC間(約7.9km)が暫定2車線で供用済みです。永平寺大野道路の未開通区間は、北陸道と接続する福井北JCT～松岡出入口までが平成26年度に、永平寺東～上志比までが平成28年度に開通予定となっています。この路線の開通により、災害時における信頼性の高い交通路の確保を図り、災害時における地域間の連携強化を図ります。全線開通した場合は北陸自動車道から中部縦貫自動車道を経て長野自動車道・中央自動車道へ至る、福井県と関東地方(特に東京都)を結ぶ高速自動車交通の最短ルートを成す路線となります。

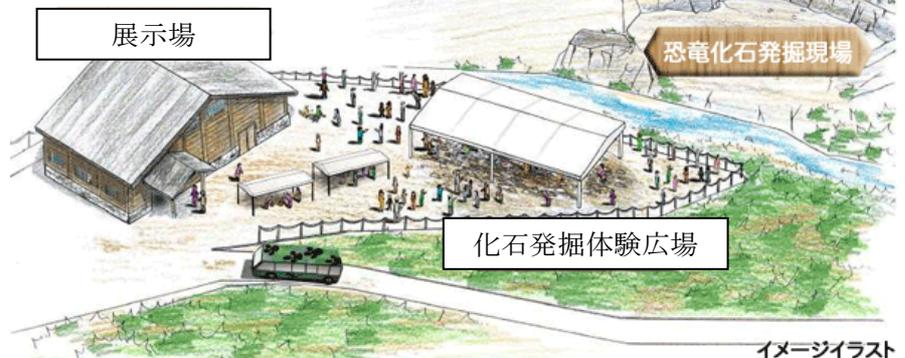
### 2 野外恐竜博物館建設工事

..... 勝山市北谷町

福井県立恐竜博物館(平成12年度全建賞建築部門受賞事業)は緑豊かな長尾山の自然の地形を極力保存しながら、地形の起伏を積極的に利用するために、建物は敷地の高低差の中に沈み込ませて、山に根付いた自然と一体化した建築としています。今回、北谷町の発掘現場で新たに整備を進めているのは、野外恐竜博物館の建設で、主に発掘作業をメインとした発掘調査の歴史紹介や実物の恐竜足跡化石の展示等を行う施設となってい

## 野外恐竜博物館

野外恐竜博物館が、福井県勝山市北谷町に誕生します。恐竜博物館からバスで約25分。奥深い山中に設けられた発見と体験のための施設です。すぐ目の前の崖の下では、博物館スタッフがまさに恐竜化石の発掘調査をしています。



ます。施設には、発掘現場の手前での化石発掘体験ができる発掘体験ひろばや発掘現場にできた手取層群の崖面や、発掘現場を観察したり、解説を聞くことができる発掘現場観察などを体験できる施設となっています。なお、施設は、平成26年7月に完成いたしました。

### 3 勝山駅前広場整備

..... 勝山市遅羽町

えちぜん鉄道は、かつて京福電気鉄道が運営していましたが、平成15年に福井県が第三セクター方式で運営することとなりました。勝山市では、国登録有形文化財に認定されている勝山駅舎を活用し「歴史・文化の匂いを残す“かつやまロマン”」をテーマに周辺まちづくり事業を実施しています。整備は、北陸初の電気鉄道と昔の姿を残す駅舎を中心に、歴史ある趣とノスタルジーを感じる景観づくりとともに、市中心部と観光地等を結ぶ交通結節点としての機能の強化、生活の場としての利便性の高いまち、勝山の玄関口としての魅力的な顔づくりをコンセプトに実施しています。整備は駅前ロータリー広場整備と踏切改良工事を福井県で、勝山駅舎の改修とテキ6展示施設、駅西公園整備を勝山市が実施しています。



整備の中心となる勝山駅舎は、大正3年に京都電灯株式会社によって、京福電気鉄道の開通時に創建されて以降、勝山市の発展に大きく寄与し、平成16年2月に国登録有形文化財に指定されました。駅舎改修にあたっては、文化財の価値を損なうことなく極力創建時の板張りと漆喰の外観に復元しました。駅前ロータリー広場整備では、歩道部及び車道部に無散水融雪装置を設置しています。この融雪装置は、隣接する工場の温排水から熱交換機により熱エネルギーを活用し、不凍液により循環する仕組みとなっています。また、テキ6展示施設のテキ6とは、大正9年に製造された北陸初の電気機関車で、奥越地域と県都福井市を結び、多くの物資を輸送し地域の発展に貢献した車両で、駅前広場に動態可能な状態で保存展示しました。これらの整備は平成20年度から実施され、平成25年10月に完成いたしました。

### 4 六間通り整備事業

..... 大野市幸町

大野市は、福井県の東部に位置し、人口約3万5千人、面積872.30km<sup>2</sup>で、市域の87%を森林が占めています。大野市中心市街地は、山々に囲まれた盆地の西部に位置しており、亀山にそびえる越前大野城、東西六条、南北六条の碁盤目状に区切られたまち並みや寺町通り、四百年続くとされる七間朝市など、城下町の景観を現在も残しています。しかし、商店街となっている旧城下町の通りは、歩いている人が殆ど見られないような状況であり、空き家や低・未利用地も目立っていました。

そこで、大野市ではその危機感から、大野市中心市街地活性化基本計画の作成に取り組み始め、平成20年7月に基本計画が国に認定されました。主要な事業の一つに六間通り整備が盛り込まれ、そのコンセプトは「だれもが安心で、楽しく賑わいのある六間通り」として整備を進めることとなりました。

- ①シンボル道路として、大野の美しいランドスケープと調和した景観をつくる
- ②碁盤目状の街路構成の中心に位置するため、歩行者と自転車の通過性と回遊性を高める
- ③人が出会い賑わう中心の場所として居心地の良い場所を作る
- ④緊急時にも車両通行が可能な防災道路としての整備

を大きな柱としています。

なお、大野市では昔から、農作業や冠婚葬祭の際、隣近所などでお互い助け合い、支え合うことを「ゆい」あるいは「いい」と言ってきました。この「結」とは「人、もの、情報を結ぶ、結びつける、結ばれ、新たな起点となる」という意味に加え、連携する、協力して事を成す」という思いを込めた言葉です。この言葉から「越前おおの結ステーション」として、地域住民の交流拠点としての機能と観光客など来訪者のまちなかへの回遊性を考慮した施設として、計画の核として整備を進めています。



整備前



整備後